

# 台湾で生活するにあたって

-----「海外で生活する」ということの心構え-----

台湾日本人会

2月上旬の台北でのタクシー運転手殴打事件は在台湾の日系社会にも大きな衝撃を与えました。これを機に海外で生活する日本人としての基本的な心構えをもう一度整理してみました。親日と云われる台湾においても、これに甘えることなく私達一人一人が海外で生活する日本人としての責任と自覚をもって日々の生活を送ることの重要性を再確認することが大事だと思われまます。

台湾で生活するにあたって、私たち日本人には、どのような心構えが必要でしょうか。台湾は地理的に日本に近く、親日的な人が多いことから、とても暮らしやすい環境であるといわれます。しかし、「海外で生活する」ことに変わりはありません。そこで、日本と異なる点、留意しておくべき点を述べてみたいと思います。

## 「海外で生活する日本人」としての責任と自覚を

まず、海外では、私たちの普段の何気ない行動が、現地の人から「日本人代表」として注目されていることを心に留めておく必要があります。たしかに、一目見ただけでは、日本人と台湾の人との区別はつきにくいことが多いのは事実です。同じ黄色人種、東洋人という外見上の共通性から、何となく外的環境に溶け込んでしまい、台湾という「海外」にいるのだという認識が薄くなってしまうことがあるのは否めません。しかし、自分たちが台湾においては「外国人」であり、注目されやすい立場にあることを忘れてはいけません。海外で生活するとき、本人が意識するしないに関わらず、私たちは「日本人代表」です。一個人としてのふるまいは、海外においては「日本人のしたこと」として日本人全体に一般化されて受け止められます。

また、「日本人」ということで、台湾の人が親しみを持ってくれたり、親切にしてくれることもあるでしょう。台湾の人は、全般的に外国人に対して親切ですが、それに加えて、「日本人」に対して好意的な印象を抱く人が多いことも事実です。これは海外で生活する日本人にとっては、大変ありがたいことです。しかしそれは、暗に「日本人」に対するプラスのイメージに沿った行動を期待されているということでもあります。裏を返せば、イメージにそぐわない言動を取った場合には、「日本人なのに」という枕詞と共に、反動としてより強いマイナスのイメージを持たれてしまうということでもあるのです。親日的であることに感謝こそすれ、「親日」という心地よさに甘えて行動することは控えるべきです。使い古された言い方ですが、海外においては、日本国内以上に「節度ある行動」が求められます。観光か居住かを問わず、決して、「旅の恥はかき捨て」ではありません。台湾生活が長くなっても、そのことを忘れずにいたいものです。

## 歴史的経緯についての認識

台湾と日本との歴史的経緯を知っておくことも大切です。台湾は、日清戦争終結の1895年から太平洋戦争終結の1945年までの約50年間、日本の統治下にありました。日本の歴史としては、「日清戦争後の講和会議において締結された下関条約により、遼東半島、台湾、澎湖諸島が日本に割譲された」と記されます。その後の台湾の日本時代は、日本による植民地統治で困難を極めた時代であったという歴史的認識もあることを私たちは知っておく必要があると思います。台湾の日本統治時代という歴史は、台湾の人が日本人を見る際のバックグラウンドの一つとして確実に存在します。歴史に関わる認識は、双方で見方が異なる場合にはもちろん摩擦を起こしますが、片方にその知識が全くない場合にも、すれ違いが起こり、心理的なわだかま

りを残しやすいものです。台湾は全体としては親日的ですが、過去の歴史に対する見方は多様で、一部には日本に対して厳しい見方をする方がいます。台湾の日本統治時代には、抵抗や闘争もありました。私たちは台湾に住んでいるのですから、その歴史を知ることでも必要ではないでしょうか。

## 台湾社会での言動—日本の常識は必ずしも台湾の常識ではない

海外においては一人ひとりが「日本人代表」であるということ、滞在国と日本との歴史的経緯を認識する必要があるということは、台湾に限らず海外生活全般にいえることですが、台湾ならではの注意事項もあります。政治的意見に限らず、海外にいと、「どうせ日本語は分からないだろうから」と大声で話したり、不平不満を洩らしてしまうことがあります。しかし不思議なもので、言葉は分からずとも悪口は伝わってしまいますし、何より台湾には日本語の分かる方が多くいます。全体的な意味は伝わらずとも、理解できる部分的な単語が原因で台湾の人に誤解される恐れもあります。

生活環境に関わる側面でも、日本で当たり前になっていたことが、実は当たり前ではなかったということが多々あると思います。例えば、水道水を生のままで飲めるかどうか—水道の生水をそのまま飲むのは世界的には非常識、空き巣対策—窓の外の鉄格子、交通事情—オートバイやタクシーの多さなど、台湾に来て驚くことも多いでしょう。

また、日本人が台湾で体験したエピソードに基づく実感として、例を挙げてみます。

- 70歳代から上の台湾の方へ「日本語が上手ですね」など、相手の教育のプライドに関わることに言及することは、できるだけ避けた方が良いでしょう。日本語で育った台湾の方へは嫌味に聞こえることもあります。
- 台湾の人は日本人の上司であっても、日本人の名前の姓を呼び捨てにすることがありますが、これは親しみのある表現です。嫌な感じがする時は、日本の常識を詳しく話して、説明すると良いでしょう。
- 台湾の人との口論で、言い争いになっても、軽い気持ちでも相手に「バカだなあ」「アホだなあ」などの叱責的な意味合いを含んだ言葉は避ける方が良いでしょう。台湾の人は、日本語の分からない人でも、これらの日本語は侮辱的に捉えて感じて分かる人が多いです。
- タバコは必ず喫煙が許可されている場所で吸いましょう。また、台湾の人の前では、礼儀上、必ず相手にすすめてから喫煙します。お酒も同様です。
- 台湾の人は、政治に関する関心がとても高いので、例えば、台湾の政党「国民党」「民進党」に関わる言論や、政治に関する歴史上の人物などへの言及も避けた方が良いでしょう。

その他、海外生活において心配されるのは、犯罪に巻き込まれ被害者になることですが、自分自身が加害者になる可能性もゼロではありません。台湾では外国人が違法行為を行った場合には、治外法権を持つ外国人、外交官などを除き、台湾国籍の人と同様に裁かれます。台湾は属地主義を取っており、自国内で行われた犯罪に関しては、容疑者が本国籍であっても外国籍であっても同様に自国（台湾）の刑法が適用されます。外国籍の犯罪者は、判決が下され、刑期が終了すると強制出国となり、以後、一定期間にわたり再入国が禁じられています。

ここで述べたいことは、日本の常識が必ずしも台湾でも常識であるとは限らないということです。私たちはそのことを心に留め、注意して台湾生活を送ることが大事だと思います。親日的ということに甘えることなく、「厳しい目」の存在を意識した行動・発言が求められます。

海外での生活は、日本での生活と違い、不自由に感じることや「行き届いていない」と感じることも、また、事あるごとに「日本と違う」と文句を言いたくなることもあるでしょう。しかし、台湾で生活することになった以上、自分という「外国人」を受け入れてくれている土地や人々に感謝する気持ちを忘れてはいけません。幸いにも、台湾には日本人に対して好意的な人たちが多くいます。私たちはそれに甘えるだけでなく、今後、台湾にやってくる後進の日本人のためにも、日本人としての自覚と誇りを忘れずに、現地の慣行・ルールをしっかり尊重する心構えをもって、台湾での海外生活を過ごしていきましょう。